

「今こそ！リサイクル」

春日部市 四年 末永 翔子（すえなが しょうこ）

私は、学校でゴミについて勉強をし、リサイクルの「3つのR」の事を初めて知りました。家では、資源ゴミを分別して捨てるよう気をつけていますが、その先どのようリサイクルされていくのかわかりませんでした。

リサイクル・プラザJBを初めて見学してとてもおどろいたのは、「手選別コンベア」です。コンベアの長さが約三十メートルもあり、暑い中、エアコンのない所で六から八人の人が作業をしていて大変そうでした。選別する時にこまるのが、かん電池・電球・ライターなどの異物がまざっていることだそうです。たばこやおむつまで入っているには、とてもおどろきました。異物が入っていないければ手選別する人の負たんをへらすことができ、作業もスムーズになるので、そのことを多くの人に知ってもらいたいことが必要だと思えます。

次に、一番印象深かったことは、せい品の原料とエネルギーについては、かん、びん、ペットボトルなどは、もとの原料からせい品にするまでのエネルギーより、リサイクルでせい品にする方がだんぜん少ないエネルギーで作れるということなんです。リサイクルでせい品を作ると、かんきょうにもとてもやさしいと思います。それから、新しいせい品がもっとふえればリサイクルも楽しくなるでしょう。

ところで、私の両親が子どもの時には、ほとんどマイバックを持って買い物に行ったり、牛乳、ジュース、ビール、酒などはリターナブルびんが多かったです。また、旅行するたびに、水やお茶をペットボトルで買うなんて思わなかったと言っています。

さらに、本で調べてみると、江戸時代はリサイクル時代といわれるほど、はいき物ゼロが当たり前でした。江戸の町と周辺の農村は、農作物の供給と肥料としての排泄物のリサイクルでおすばれていました。修理したり作り直したりするしよく業がありました。また、古道具などを持ちよって売り買いする今でいうフリーマーケットもさかんでした。今では、私たちの生活がべん利になればなるほどゴミがふえます。今さら大昔のような生活はできないから、リサイクルに協力することがとても大切だと思います。そこで、少なくとも生きている資源を未来の人たちがこのすためにも、一人一人が「3つのR」を心がけ、行動することが大事だと私は考えました。そのため、私たちができることは、生活を見直してごみをへらすこと、リサイクルの重要性などをせん伝えて、人々に広く知ってもらうこと、リサイクルしやすいと思えます。リサイクルの重要性などを見直して、リサイクルの再利用できる技じゆつやきかいが発明されれば、地球にもやさしい社会になると思いま